觀測部月報

★

東亞天文協會

★ 流星課だより (109)

課長　小槇孝二郎

謹みて皇紀2601年の歲旦を賀し奉る.

× × × × ×

月はじめの四分儀座流星群は，今年は月の邪魔が全くない．三年振りの觀測好機會である．課員は申すまでもなく，一般會員の觀測を切望する．下旬の牧夫座流星群も觀測に好都合である．主なる輻射點は下の如し.

日	赤經 (α)	赤緯 (δ)	附近の星	性質
1—5	230°	+52°	龍座 ι	迅，顯著
17—25	143	+38	山猫 38	迅
下旬	213	+52	牧夫北部	甚迅

× × × × ×

新しく石川縣寶立町の金田伊三吉氏が流星課に入課された．大いに意氣込んでゐられる．折角の奮闘を望む．東京市の石橋正君(七中天文部)から，九月26日及十月4日に，夫々5個の流星を觀測された由報告があつた．未だ正規の方法によつてゐられないので，今後の活躍を希望する.

瀨戸觀測所の本田實氏は，十月8日2時39分特異な火球を見られた．光度は，負一等半の甚だのろい赤色のものであつたが，それが5個に分れてゐて，且，全體が痕で結ばれて居た由である．同月10日4時05分には同氏は金星の光の十倍以上の明るい火球を見られた．恐らく兵庫縣北部の上空で飛んだものらしい．近畿中國地方でこの火球を見られた方の御報告を希望する.

十月9日頃のジヤコビ＝流星の報告は未だない．筆者は同月12日の朝，山猫座から放射する3個の流星を見たが，流星群として確認するに至らなかつた.

千葉縣柏町の江川義君から六月以來の觀測を送られた．概略は下表の通りである.

月	回數	時間數	流星數
六月	2	90分	3
七月	1	60	6
八月	5	419	144 (+32)
九月	1	25	3

八月の觀測中にはペルセウス流星を多數含んでゐる．(昭和15, 10, 18)

★ 彗星課だより

久しぶりで彗星課より書く．實際，永い間，吾々だけでなく，世界の彗星界は淋しかつた．今年は第三シヴスマン・ワハマン，ジヤコビニ，フィンレイ，フェ，第三ネウイミンといふ風に5ケの週期彗星が遙々々歸つて御出でになるものと，年初から期待してゐるのだが，今に至るも全く何の音もない．（實際は，確かに此等の星々は太陽へ歸つて來てゐるのだけれど，人間界の方で戰爭などやつてゐるものだから，誰も發見しないのだらう．）そのうちに，去三月頃に，洪國のクリン György Kulin 氏が發見したといふ 1940a が報告された．ところが，よく聞いて見ると，之れは，一月6日にクリン氏が蟹座で小遊星の觀測中に“一新小遊星 1940 AB”として見つかつたものであつて，三月になつて，木星族の一彗星だと知れたものである．（急報 420）

それから又，永い間，天界は寂莫であつた．四月にドイツがコペンハーゲンを占領して，軍政を布いたりしたものだから，彗星の電報中央局も開店休業か？と思はせた．實際四月から九月まで，コペンハーゲンからは電報も回報も，何も來なかつたのである．ところが，九月になつて，米國ハーヴード天文臺が俄かに活躍し始め，同所のカニンガム L. E. Cunningham 氏が1日にホイプル彗星（1933f＝1933 V）を發見し，次いで，同じカニンガム氏が5日に新彗星を發見した（急報 445）．それから，十月になると，こんどはホイプル F. L. Whipple 氏が去る七月29日に撮つた寫眞板上に又一新彗星を發見した事を報告し（急報 448），こゝ暫くはカ氏とホ氏とが懸け合ひの體裁に見えたところ，十月1日以來，順番は我が日本に回つて來て，果然，岡林氏と本田氏とが一新彗星を見つけたといふわけである（急報 443 以降）．一時は，カニンガムの名とホイプルの名とが出たりして，どちらがどちらだか，大に迷はせたが，今日では全部の事情が判明した．

此の5つの彗星を，一覽表にして見ると，

彗星の名	クリン彗星	ホイプル彗星	カニンガム彗星	ホイプル彗星	岡林本田彗星
假り符號	1940a	1940b	1940c	1940d	1940e
新か舊か	新	舊（1933v）	新	新	新
近日點通過	去1月12日	來1月22日	來1月17日	去10月7日	去8日14日
近日點引數	292.7°	190.5°	198.2°	235.3°	328.4°
昇交點黃經	137.6	188.8	242.5	134.2	127.2
軌道の傾斜	4.8	10.2	50.7	55.2	132.9
近日點距離	1.73	2.49	0.366	1.088	1.052
長半徑	3.17	3.85	—	—	—
公轉の週期	5.64年	7.47	—	—	—
發見の日	1月6日	9月1日	9月5日	7月29日	9月30日

この中で，1940c 星が年末頃に大彗星となるだらう．時々刻々の狀況は急報を見られたい．(進)

★ 黃道光課だより

瀨戸觀測所の本田氏より，去る十月8日，9日，12日(2枚)，31日，十一月1日(2枚)，3日の早曉の黃道光，及び十月4日の夜半の對日照の觀測報告を受領した．又，十月12日の朝，西宮市外で，小泉功氏と筆者とは淡い黃道光を觀測した．尙，靜岡縣の醍醐氏から九月26日，十月2日，4日，7日，8日，9日，10日の對日照と，十月2日，4日，8日の黃道光の觀測報告を受領した．十月1日の皆既日食の前後に於ける特別プログラムの觀測は，今まで此の醍醐氏のもののみを入手したわけである．天氣は當時一般に良くなかつた．早曉の天には金星があり，又，夜半には木星と土星とが輝いてゐるので，吾等の觀察には可なりの妨害を受けるのだが，しかし，今までの報告によると，案外に此の種の妨害は少い．(山本)

★ 變　星　課

段々と立派な報告が手許に出る樣になつたのは嬉しいことです．薄學淺才で，小山氏の樣な御世話が出來ないのは殘念です．だから諸兄の一層の御鞭撻と御協力を御願ひします．本年前半期の變星整理が小澤幹事の手で出來上りましたから，近日“天界”誌上で發表されます．

本月5日迄に受け取つたものは右記の通りである．(岡林)

氏　名	星數	目測	月　別
小澤　喜一	34	742	6, 7, 8, 9
三宅　　彰	4	40	8, 9
三宅　和夫	4	39	8, 9
中野　　繁	5	26	9, 10
岡林　滋樹	26	107	9, 10
坂上　　務	1	2	8
富田弘一郎	6	23	9, 10
津留　繁雄	7	12	7, 9
山田　達雄	1	1	9

★ 太陽課だより

九月は惡天候が多く，殊にシーイングの惡い月であつた．總報告者13名，總員して捕へても，24日が一日缺けた．九月に於ける特筆すべき黑點群は，18日東半球に突發し，20日中央子午線を通過し，26日西沒した群と，22日東緣より出現した群とであつて，前者は變化や發達が極めて甚だしい群であり，後者は無形的な單獨大黑點であつた．

高緯度群としては，16日に西半球へ突發の N 27° であり，沓掛氏の觀測では14日の北 15° のが最高であつた．沓掛，津留兩氏の緯度觀測，坂上，津留氏の肉眼可視觀測，富田氏の南北半球別の相對數の報告等，每月異彩を放つてゐる．

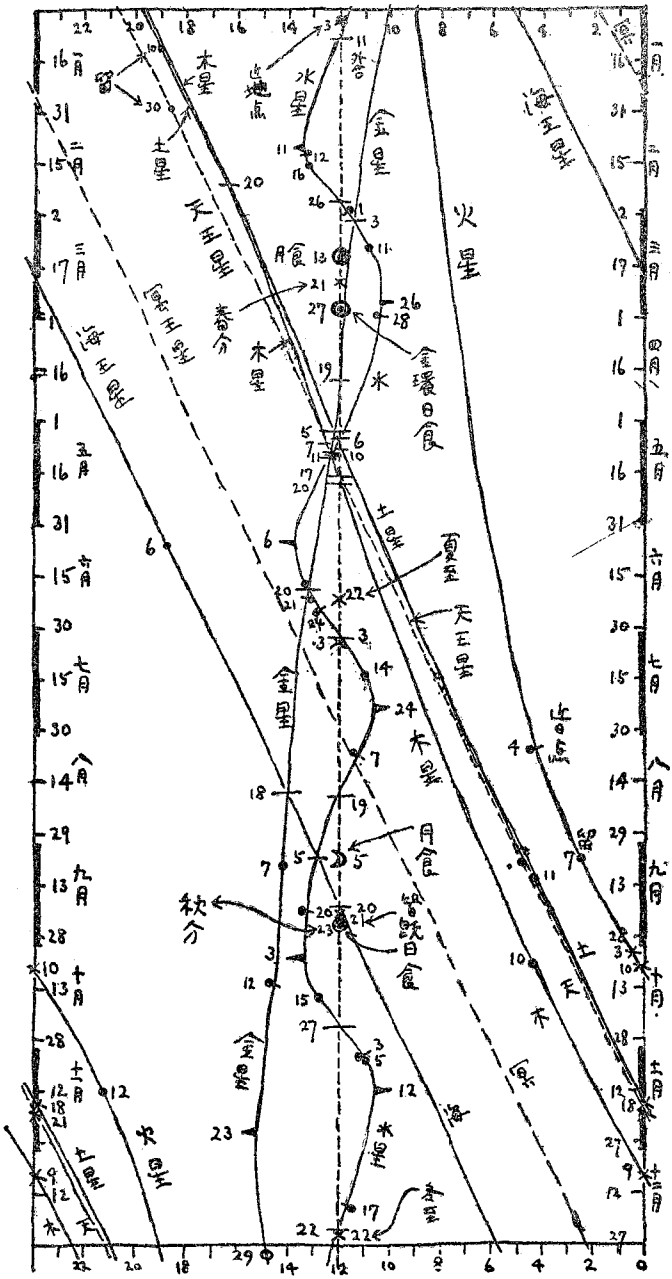
尙，今後編輯上の都合により，觀測日數10日以下の報告は，天界誌上への發表を差控へるかも知れませんから，何とぞ御奮鬪下さい．(本田)

太陽黑點相對數報告 (1940年9月)

觀測者(觀測地)	坂上務(鹿兒島市山下町)	津留繁雄(熊本市本莊町)	本田實(瀨戸觀測所)	岡林滋樹(倉敷天文臺)	谷口裕康(神戸市葺谷區)	金山明(尼ケ崎市昭和通)	前橋榮太郎(大阪市明星商業)	竹内潤(大阪市天王寺區)	樋口操(大阪市北區)	木邊成麿(滋賀縣中里村)	正村一忠(岐阜市溝旗町)	大石辰次(靜岡縣吉永村)	沓掛七二(長野縣青木村)	堀田泰生(横濱市鶴見區)	阿部正明(東京市池袋)	冨田弘一郎(東京市世田谷區)	江川義(千葉縣柏町)
口徑 mm	42	130	75	75	40	30	25	32	50	75	25	55	102	20	28	40	30
倍率	64	48	60	60	50	26	54	50	50	60	48	64	75	50	45	32	50
方法	投	投	直	投	直	投	直	直	直	直	直	直	直投	直投	投	直	直
1	曇	雨	病			108	曇	忙	110			106	124		106	103	55
2	106	87	〃			101	缺	〃	105			曇	曇		曇	86	75
3	104	87	〃			曇	114	〃	曇			105	114		〃	雨	82
4	雨	雨	〃		(病氣のため缺測)	91	缺	〃	113		(入院につき缺測)	曇	100	109	93	缺	72
5	91	72	72			88	67	缺	97			96	98	115	84	〃	63
6	曇	雨	曇			87	缺	30	缺			曇	曇		曇	曇	曇
7	〃	〃	69			曇	53	47	104			67	〃		〃	雨	雨
8	81	曇	61			缺	53	31	66			35	63		〃	曇	曇
9	63	〃	曇			〃	〃		曇			缺	缺		雨	雨	雨
10	49	雨	雨			曇	11		缺			〃	〃		〃	旅	曇
11	雨	〃	〃			〃	曇		55			〃	44		曇	〃	〃
12	曇	〃	〃			雨	〃		雨			曇	曇		雨	〃	25
13	〃	〃	39			50	〃		55			〃	42		35	51	缺
14	93	48	39			54	17		19			28	37	48	51	31	26
15	76	曇	28			缺	缺	旅	18			30	曇	58	64	雨	26
16	雨	〃	66			58	38	55	60			曇	〃		雨	31	曇
17	103	93	58			90	43	28	78			〃	〃		〃	曇	〃
18	曇	曇	76			89	55	忙	曇			75	雨		〃	〃	雨
19	67	96	80			90	91	57	缺			曇	曇		〃	雨	〃
20	曇	曇	103			95	95	62	旅			77	101		曇	缺	缺
21	〃	〃	110			曇	81	忙	97			曇	115		73	107	〃
22	116	〃	104			87	51	旅	98			76	105	122	曇	111	曇
23	雨	雨	77			缺	曇	53	72				65		50	99	
24	〃	〃	曇			曇	雨	曇	雨			曇	曇		曇	缺	52
25	89	曇	57			〃	曇	〃	59			〃	缺		〃	53	46
26	87	雨	60			缺	22	忙	缺			44	34		47	54	33
27	雨	〃	曇			曇	曇	雨	曇			曇	曇		曇	43	缺
28	〃	〃	48			50	34	16	56			46	〃		〃	53	34
29	38	〃	曇			曇	曇	15	曇			曇	〃		〃	曇	曇
30	雨	曇	61			53	38	16	80			雨	〃		〃	〃	〃
日數	14	6	18			15	15	11	18			12	13	5	9	12	12
平均	86	81	68			79	54	37	75			65	80		67	69	49
前月平均						72	68	61	86			82	120		93	86	73

豫報課

來年（一九四一年）の諸遊星出沒圖



★ 掩蔽課より 久しぶりで水星が太陽面通過をやつたので，各地の會員たちは各々觀測した．山本會長や木邊部長は滋賀縣の鄉里で，岡林本田兩氏は倉敷で，又，大阪のプラネタリウムでは高城山形大口氏等が觀測した．又，山本進山口善造兩氏は木邊觀測所で觀測した．伊達英太郎氏は雲に妨げられた由．以上は今までに報告が到着した方面であるが，尙ほ其のほかからも今後報告は集まるだらう．（詳細は次號にゆづるが，數値は取り敢へず急報を見られよ．）此の日（十一月12日），天氣は一般に良く，殊に西の地方ほど快晴に惠まれたが，東方は雲又は雨で，東京は朝から雨だつたらしい．木邊觀測所では危ふい所で第4觸が雲に妨げられようとしたが，幸ひに免がれた由．（1940—11—13. 幹事）

各地よりのたより

倉　敷　通　信

發見談と云ふ程の苦心もロマンスもない．それでは樂をして彗星を見つけ出したかといふと，さうでもない．“組織的の捜索を始めて未だ日も淺くて，語るべき經驗も苦心といふ程のものもない”の意である．どうして，こう云ふ樣な事を始めたかといふと，可笑（オカシ）な話だけれど，自分の此れまでの“發見”とか“獨立發見”といふものが，凡て偶發的になされたものであるから．——“少し苦勞をしてやらう”と，謂はゞ“罪亡し”の樣な氣持から起つたのである．然し，いざやり始めて見ると，その困難さは一入であつた．口には盡されぬ．筆にも書けぬ．書藉に“望遠鏡を無暗矢鱈にあつちこつちに振り廻はしておれば見付かる”と云ふ樣な事が書いてあるが，あれは嘘だ．こう云つた無責任な事を書くから，彗星が發見されないのだ．“彗星探しと云ふものは非常に困難なものではあるが，努力と忍耐は必ずその實を結ばしむるものである”と云ふべきだ．“彗星捜索に，適不適は，造られるものではなくして，生れるものだ”と云ふ言葉の眞僞は私は知らぬ．私に云はしむれば，多くの彗星の發見者は，最初の彗星の發見に依つて自信と度胸とを持つ樣になつて，その後のたゆまざる努力を以つて多くの發見がなされるのではあるまいかと思ふ．失望と焦躁の幾日かゞ續いて，もはや自信も希望も失なつて仕舞つた時，我々を支持し慰めてくれるものは先人のたどつた足跡だ．メシエはどう？　バーナードはどうであつたか？　リイドはあゝであつた，と，これ等の先人の遺した涙ぐましい跡をたどつて我々は再び新しい希望と努力を持つ．こう云ふ過程を經ての發見だ．嬉しくない事があらうか！　私は冷靜な科學者を以て自から任じはしない．赤裸々の人間をさらけ出して，大空に呼ぶのだ．夜半の靜寂な空氣を破つて，大聲